2024 年度　事業報告書

特定非営利活動法人　アフリカ日本協議会

l　　事業の成果

従来からのネットワークを活用しつつ、TICAD 閣僚会議（8 月）におけるアフリカおよび日本の市民団体との共催による分野別イベント、非会員も参加した AJF30 周年記念特別企画（11 月）などで新たなネットワークづくりを含めて、以下の活動を実施した。

１）在日アフリカ人共生・協働事業

アフリカンキッズクラブ（AKC）を運営し、アフリカにルーツをもつ子どもたちが、アフリカ文化に触れ、楽しみ、自信につながる活動を行った。AKC では、「AFRICAN FASHION SHOW」（5 月）、「みんなで踊ろう！アフロダンス＆トーク」（6 月）、「年末大集合！～アフリカ音楽＆みんなでトーク～」（12 月）を実施した。AKC 関西は運営メンバーも増え、「バーベキュー×サッカー×ダンス」（9 月）、「カレン×ジュリアの Afro Dance クラス」（3 月）を開催した。また、主体的に活動するユースに協力し、アフリカンユースミートアップ（AYM）のメンバーも東京都人権啓発センターや大学などで講演を行った（6 回）。他に「難民・移民フェス」（7 月）、移住連、なんみんフォーラムのネットワークへの参加など、他団体とともに、差別・偏見のない社会に向けて活動するとともに、東京周辺の在日アフリカ人集住地域における在住外国人支援団体等と連携し、情報収集・意見交換を行っ　た。

２）ネットワーク形成事業

①国際保健分野

a)　国内のネットワーキング

日本国内での国際保健分野のネットワーク形成については、当会共同代表の稲場が、同分野の NGO ネットワークである「グローバルヘルス市民社会ネットワーク」（GH ネット）の代表を務め、同ネットワークの事務局や幹事会メンバーと共に、保健分野に関する市民社会のネットワーキングや、外務省、厚生労働省、内閣府健康・医療戦略推進事務局などとの意見交換や政策提言の基盤を維持・発展させた。外務省・厚生労働省とは合計５回、内閣府とは合計２回の意見交換会を持ち、その時点での重要な保健分野の課題等についての意見交換や政策提言を行った。

b)　世界及びアフリカ等の地域レベルのネットワーキング

海外とのネットワーク形成については、アフリカ地域については WACi Health （ケニアに本部のあるアフリカ全体の保健アドボカシーNGO）と連携し、また、アジア太平洋地域については APCASO（旧・アジア太平洋地域エイズ・サービス組織評議会）の評議員、およびグローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）を支援する市民社会ネットワークである「グローバルファンド活動者ネットワーク・アジア太平洋」（GFAN AP）の運営委員を務め、これらの地域で特にエイズ、結核、マラリアに取り組む市民社会・当事者団体等の連携と協力を強化した。

c)　東・北東アジア準地域レベルのネットワーキング

東アジア地域に関しては、10 月に国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）北東アジア地域事務所が韓国・インチョンにて開催した「北東アジア SDGs マルチステークホルダー・フォーラム」において、SDGs ゴール３（保健・福祉）に関するセッションおよびサイド・イベントを開催、韓国・モンゴル・ロシア・中国などの市民社会との連携を強化した。一方、東アジアの保健分野市民社会のネットワーク形成のつながりで、前年度から引き続き、東アジアにおける移民・移住者の健康と権利に関するセッションを開催した。また、２月にバンコクで開催されたアジア太平洋地域 SDGs 持続可能な開発フォーラム（APFSD）では、ゴール３（保健）が SDGs の定期的詳細レビュー（RIR）の対象ゴールの一つであったことから、特にエイズ・結核・マラリアの三大感染症に特化した評価イベントを国連合同エイズ計画（UNAIDS）および GFAN AP と共に開催し、三大感染症に関する一定の注目を集めることに成功した。

②SDGs（持続可能な開発目標）

SDGs の推進に関わるネットワーク形成については、当会は SDGs 市民社会ネットワークの開発ユニットおよび保健ユニットのメンバーとして、市民社会における SDGs に関わる政策提言に参画した。国際的には、アジア太平洋における国連の SDGs レビュー・プロセスへの市民参加枠組みである「アジア太平洋地域市民社会参画メカニズム」（APRCEM）の北東アジア地区グループにおける日本のフォーカル・ポイントとして、10 月に韓国で開催された「北東アジア SDGs マルチステークホルダーフォーラム」への各分野（保健、環境、ユース参画など）の日本の市民社会関係者の参画を促進した。一方、政府が設置する SDGs 推進円卓会議の民間構成員として、SDGs 円卓会議の在り方についての提言や、2025 年に日本も対象となる「自発的国家レビュー」（VNR）が、公正で客観的な内容となるよう、働きかけを行った。

一方、以前から加盟している、SDGs 推進のための NGO と労働組合（連合傘下）「NGO・労働組合国際協働フォーラム」では、保健グループの事務局を担い、４つの産業別労働組合、２つの国際労働組合連携機関と３つの NGO の連携・交流を促進している。

③TICAD 等

第９回アフリカ開発会議（TICAD 9）に向けて、30 団体が加盟している TICAD NGO 連絡グループの活動を強化し、８月に開催された TICAD 閣僚会議に向けて、同会議の全体会への NGO の参加やサイド・イベントの開催等を支援する取り組みを行った。また、アフリカ側の市民社会と外務省とのオンラインでの意見交換会の開催をサポートするとともに、閣僚会議に３名の「アフリカ市民協議会」（CCfA）メンバーを招へいし、ともに政策提言活動に取り組んだ。

３）アフリカ調査・研究事業

①国際保健

世界の HIV/AIDS 対策や国際保健政策の最新情報を月間で配信する「グローバル・エイズ・アップデート・プラス」を月刊ペースで年 12 回発行した。また、これに掲載するために、国際的なパンデミック対策や保健に関する資金の動向、政策動向などについての記事を合計 24 本執筆し、AJF ウェブサイトの「国際保健と COVID-19」コーナーに掲載した。

②食料・農業

食料・農業に関する調査・研究は、FAO の報告資料を研究する「FAO の資料を読む学習会」の実施（10 回）と、その成果をもとに広く参加者を集めたオンラインセミナーを 2 回開催、「世界食料デー」月間に向けての他団体と協力しての啓発活動（プレイベント「胡麻から見える食料危機」、World Food Night 2024 出展）、および土壌のリン循環に関する南アフリカ調査に協力し、現地団体との調整業務を行った。

③アフリカ熱帯林・生物多様性等

アフリカ熱帯林地域での森林環境、野生生物、先住民族についての調査研究に基づき、地球環境の問題、関係する先住民族の社会問題等について、各種イベントへの参加やチラシの作成配布、関連セミナー等の主催や告知、記事紹介等による普及啓発活動や情報提供を行った。ヨウム保全チラシの改訂・増刷を行い、イベントなどで配布した。NPO 法人 TSUBASA 主催のイベント「愛鳥祭」、多摩動物公園アフリカフェアに出展参加し、アフリカ熱帯林のヨウムについて情報提供を行った。

４）政策・提言事業

①国際保健

パンデミック予防・備え・対応（PPPR）に向けた国際的な枠組み作りである「パンデミック条約」策定交渉について、会議に直接参加・提言できる「関連するステークホルダー」の立場で参加、モニタリングし、途上国のパンデミック医薬品アクセスの促進や医薬品製造能力の強化の立場から政府や国際機関に対するアドボカシーを積極的に行った。また、世界保健機関（WHO）において多国間の交渉の対象となっていた「パンデミック条約」の草案をめぐって、偽情報や陰謀論の問題が大きく浮上したことから、メディアや国会議員等への働きかけを行い、より正確な情報の普及や問題提起を積極的に行った。

2025 年がグローバルファンドの第８次増資の年であり、これに向けて、日本が各国と連携・協力して当該基金に必要額を拠出するよう、様々な機会を活用して政府や関係機関への働きかけに取り組んだ。また、2025 年 TICAD 9 に向けて８月に開催された TICAD 閣僚会議でも、アフリカ・日本の市民社会の参加の拡大や SDGs の推進などに向けて、政府と日本の市民社会の意見交換会を２回、政府とアフリカの市民社会との意見交換会を１回、組織した。さらに、TICAD 9 に向けて東京で３月に行われた TICAD 共催者会合ののち、日本政府を含む共催者との公式対話を持った。

②西サハラ問題

「西サハラ友の会」と協力して、西サハラ問題に関する啓発に取り組んだ。定期的な会合やイベントを開催したほか、ブックレット「西サハラの奪われたタコ＝モロッコ占領下の水産業と日本の食卓＝」の作成に協力した。

５）アフリカ理解促進

会報『アフリカ NOW』は、125 号（特集「内戦が続くスーダンの危機」）、126 号（特集「アフリカンルーツの子ども・ユースの経験と未来」）、127 号（特集「TICAD 9（第 9 回アフリカ開発会議）に向けた市民社会の取り組み」）を発行した。ウェブサイト上で活動に関連する情報を発信した。アフリカに関わるテーマで、対面イベントでのブース出展（グローバルフェスタ、多摩動物公園アフリカフェア）、セミナーや、後援、原稿執筆、メディアインタビュー等を通して、理解を深めるよう努めた。ハイブリッドで行うアフリカセミナーシリーズ「アフリカ玉手箱」を立上げ、第一回は外部講師を迎えて「ガーナ流家族の作り方とは？　世話する・されることで生まれる居場所」を開催した。「アフリカニュース発掘部」として、学生インターン及びボランティアを中心に、アフリカに

関する重要なトピックについての紹介を、月１回、ウェブサイトおよびメーリングリストを通して行った。

６）アフリカ支援事業

西サハラ友の会やその他アフリカで支援活動を行う NGO・NPO の広報に協力した。

２　事業の実施に関する事項

（１）特定非営利活動に係る事業　（事業費の総費用　20,947 千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
在日アフリカ人共生・協働事業	「アフリカンキッズクラブ関西」では、アフロダンスやアフリカ音楽の体験イベントなどを行い、子どもたちが集う場を作った。「アフリカンキッズクラブ東海」では野外でのイベントなどを企画した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	関西、東海各居住地	15	アフリカにルーツを持つ子ども・若者・保護者、在日アフリカ人、市民	400	2,011
	アフリカにルーツをもつユースによる交流会やイベントを実施した。また大学での講義、情報発信などを行い、経験や思いを共有し、マイクロアグレッション、レイシャルプロフィリングなどの社会的解題について考える機会を作った。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京各居住地	10	アフリカにルーツを持つ子ども・若者・保護者、在日アフリカ人、市民	700	
	在日アフリカ人コミュニティと連携・協力し、セミナーやイベントなどを通し、アフリカ理解の促進、交流の輪を広げた。また、在日アフリカ人のニーズに応え、情報提供や情報交換を行った。なんみんフォーラムや移住連等と連携し、生活に困難を抱える難民・移民への支援、人権擁護や政策提言などを行った。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京各居住地	12	アフリカにルーツを持つ子ども・若者・保護者、在日アフリカ人、市民	800	
ネットワーク形成事業	国際保健のための市民社会ネットワーク「グローバルヘルス市民社会ネットワーク」や JANIC、SDGs 等の市民社会ネットワークに参加し、連携の強化や情報の共有を行った。G7、G20 や国連等のイベントの機会にアフリカの市民社会を含む世界の市民社会との連携を強化した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京、国内外の団体活動地	4	国際協力団体、国際協力に従事する個人、国際保健課題に関心のある市民	700	4,339
	TICAD-NGO 連絡グループの事務局を担い、TICAD 閣僚会議に参加し、TICAD 9 に向けた取り組みを検討した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京	5	国際協力団体、国際協力に従事する個人、市民	70	
	AJF30 周年記念特別企画として、一般社会人 34 名、大学生 5 名も参加して、前半シンポジウム、後半懇親会を開催した。。	2024 年 11 月	東京各居住地	7	参加申し込みをした AJF の会員や市民	69	
アフリカ調査・研究事業	三大感染症に取り組む東アジア市民社会のネットワーキングを進め、今後の連携の方法を検討した。国際保健政策の最新動向について調査し、定期的に記事を執筆した。月一のペースで、メールマガジンのグローバルエイズアップデートプラスを発行した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京	5	国際協力、保健課題に関心のある市民	400	2,470

	FAO の資料を読む学習会を継続し、アフリカの食と農の現状について情報発信やセミナー開催を行い、オンラインセミナーを2回開催した。世界食料デー月間の呼びかけ団体として他市民団体、FAO、横浜市とともにイベントを開催した。土壌のリン循環に関する南アフリカ調査に協力し、現地団体との調整業務を行った。	2024 年 4 月～2025 年 3 月 世界食料デー月間は 10 月	東京 神奈川 南アフリカクワズル・ナタール州	12	国際協力、食料・農業に関心のある市民 南アフリカの農民	300	
	アフリカ熱帯林地域での森林環境、野生生物、先住民族についての調査研究に基づき、地球環境の問題、関係する先住民族の社会問題等について記事紹介等による啓発活動を実施した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京	3	国際協力、環境保全に関心のある市民	300	
政策提言事業	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現や、グローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の第8次増資会合での充分な増資金額の確保に向けて、必要な資金拠出を行うよう、国内外の団体と連動して提言を行った。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京	5	国際協力、国際保健課題に関心のある市民	100	10,103
	「公正な医療アクセスを世界の全ての人に！連絡会」の事務局を担い、公正な医療アクセスを求める運動に取り組む国内、海外の市民社会と共にパンデミック条約交渉等様々な機会を通して取り組みを行った。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京	5	国際協力、保健課題に関心のある市民	500	
	西サハラなど主権や自己決定権が脅かされているアフリカの地域や人々、団体との連携を強化し、啓発のためのセミナーやイベントの開催に協力して日本の政策の変化につなげた。	2024 年 4 月～2025 年 3 月 セミナー開催は年に 3 回程度	東京	5	国際協力に関心のある市民	300	
アフリカ理解促進事業	会報『アフリカ NOW』を 3 回、冊子とネット（PDF ファイル）で発行した。ホームページで最新号とバックナンバーを紹介し、販売した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月 会報は 4 月、10 月、2 月	東京	8	会員およびアフリカに関心のある市民	900	1,871
	ウェブサイトや SNS を更新し、AJF の活動とイベント等を紹介するとともに、多様な情報や資料などを提供した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京	8	ウェブサイト訪問者	7000 人/月	
	ハイブリッドによる一般公開のセミナーシリーズ「アフリカ玉手箱」の第1回を開催した。「グローバルフェスタ」、「多摩動物公園アフリカフェア」等に出展した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月 グローバルフェスタ 9 月 多摩動物公園 11 月 「アフリカ玉手箱」第 1 回3月	東京、他	5	会員およびアフリカに関心のある市民	5000	
	メールマガジン「AFRICA ON LINE」を定期的（毎週月曜）に発行し、アフリカ関連イベント情報等を提供した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月 毎週月曜	東京	5	国際協力関連のイベントの参加者	1400	
	アフリカに関する重要なトピックについての紹介を「アフリカニュース発掘部」として行い、メーリングリストやウェブサイトを通じて月1回のペースで発信した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京	5	市民、市民団体、学生	400	
アフリカ支援事業	他の関連 NGO・NPO のアフリカでの支援活動についての広報に協力した。	2024 年 4 月～2025 年 3 月	東京	5	アフリカやグローバルな課題に関心のある市民	400	3

※上記のほか、共通事業費が、150 千円

３　会の運営に関する事項

（1）2025 年 3 月 31 日現在の会員数：（1 年間での増減）

正会員個人	201 名	（3 減）
正会員団体	1 団体	（増減なし）
正会員学生	2 名	（1 増）
賛助会員	47 名	（5 増）
賛助会員団体	1 団体	（1 増）

マンスリーサポーター　4 名　（4 減：内 1 名は 2 件でサポート）

（アフリカンキッズクラブ 3 名、熱帯林・ヨウム保全 1 名、全事業 1 名）

（2）会計： 事務局家賃、事務局人件費、消耗品、通信費等として、4,194 千円を支出（詳細別紙）。

（3）委員会

理事会のもとにある各種委員会（会員財政委員会、広報委員会、事業委員会、倫理危機委員会）を再編し、会員・財政・事業委員会、ガバナンス・倫理委員会、広報委員会の 3 つとした。以下の会議を行った。

会員・財政・事業委員会：9/19 開催。 財政の現状、会員と会費、助成金について討議した。

広報委員会：9/6 および 12/12 の 2 回開催。第 1 回はアフリカ NOW 編集作業の改善、秋のイベント（グローバルフェスタ等）準備、30 周年記念行事について、第 2 回はアフリカ NOW の編集方針、リーフレット（日・英）作成方針について議論した。

ガバナンス・倫理委員会：ハラスメント相談窓口を担い新規職員やインターンへの告知を行った。